

# 一貫教育校の広場

ニューヨーク学院  
(高等部)

女子高等学校

志木高等学校

高等学校

湘南藤沢  
中等部・高等部

中等部

普通部

横浜初等部

幼稚園

## 「文武双全」新たな時代の幕開けとともに

●高等学校化学科 教諭・野球部 副部長

星野友則 ほしのともり

「平成最後の」この言葉をよく耳にする半年間でした。

とでした。

平成最後の夏、慶應義塾高等学校（塾高）では、さまざまな出来事がありました。待ちに待った日吉協育棟が竣工し、塾高での学びにますます活気が加わりました。塾高にとって、2018年は開設70年にあたる年。新たな校舎も加わり、「日吉協育モデル」の実践に、今後さらなる期待が高まります。ハード面に加え、ソフト面の充実も加速していき、新しい元号になる2019年は、塾高にとって

目を閉じると、今でも聞こえてくるようなあの大声援。瞬く間に過ぎ去ったほんの数時間のひとときが、私の脳裏に焼きついて離れません。私は義塾の応援スタンドが大好きです。相手校は数十台の応援バス、対する我々はバス4台。しかしふたを開けてみれば、両校ともにアルプススタンドは満員状態。各自の交通手段でスタンドを埋め尽くしてくださった皆さまの思いの強さを、改めて痛感しました。義塾のスタンドは、現地への交通手段がバラバラ、年齢もバラバラ、服装もバラバラ、一見すると全く統一感がありません。しかし、私はそこが好きなのです。見た目の一体感に走るのではなく、いざ勝負と曲が鳴り響いた瞬間にピタッとまとまるそのギャップにこそ、真の応援心を感じるからです。応援してくださいとくださった皆さまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

そのなかで、塾高が目指すべきことのひとつとして、「文武双全」という考え方は、引き続き重要なテーマです。小泉信三先生が好んだこの言葉、「文武ともに



撮影：中田康太郎（塾高71期）

全きをなす、すなわち学業とスポーツの両立」、その真の

問題、野球人口減少問題、数多くの問題が山積している高校野球。賛否両論ありますが、学生スポーツは日本の教育

意味を体現すべく、さまざまな部活が日々の練習に取り組んでいます。そして野球部においても、第100回全国高等学校野球選手権記念大会の切符を掴み、10年ぶりの夏の甲子園出場、さらに勝利の塾歌を歌いました。慶應義塾創立160年、塾高開設70年の節目の年に、平成最後となる第100回の記念大会に出場できたことは、大変名誉なこ

の宝だと私は信じています。アスリートファーストという言葉の本当の意味を、ますます真剣に考えるべきではないでしょうか。日本の学生スポーツの行く末に、義塾の果たす役割は間違いなく大きい、そう痛感する夏となりました。「文武双全」試行錯誤の日々を過ごしてまいります。